

「ひらの青春生活応援事業」に関するいくつかのプロローグ 3

No. 5 平野区の政策にできるかどうか ……「熱意」を「政策」へ つながたい！

高齢化が進んでおり、65歳以上人口の割合も、既に、25%を超えており、この割合は、今後も高まると想定。

一方で、年少人口は減少の一途で、20歳世代人口も、平野区内で、約2,000人。減少傾向が顕著。

日々の暮らしの質的向上には、地域のつながりは必要不可欠。

全国各地で、頻繁に発生する自然災害などへの備えや、特殊詐欺などの日常の防犯対策、見守りなど、地域のつながりの重要性がますます高まっているにもかかわらず、担い手不足の問題は深刻に。

愛着を持ち、みんなで支えあえる、暮らしやすいまちづくりには、次世代層の存在と活躍が不可欠。

社会人となる直前の重要な時期をサポートする施策・事業の重要度は高い。

この時期の支援(先行投資)で、後々、社会への還元に大きく寄与できる可能性があるのではないか。

98%以上が高校へ進学するという状況で、高卒ということが大前提の社会の仕組みがある。

社会人の入口である世代の「高校生」へのサポート(先行投資)を行うことで、将来の地域や社会への貢献に期待

【参考】

この年代に対して、

訓練等の自立支援プログラムにかかる経費

2年 程度で 約 500万円

仮に、正規雇用で65歳まで就労した場合に、納付できる税金

約 4,500 ～ 5,000万円

高校生に向けて、卒業・中退防止に向けた取り組みを進めてみよう！

と 方針を決定